



第6回 のびのび講演会

～PECS概要セミナー～

講師：服巻繁 先生
(ピラミッド教育コンサルタンオブジャパン株式会社 代表取締役)

日時 平成20年6月28日 13時～16時30分

場所 島根県益田市駅前町

益田市立保健センター大ホール

主催 発達障害児支援サークル「のびのび」

(1) 目的

発達障害児支援サークル「のびのび」では、過去5回の講演会を行っている。その大きな目的は、「発達障害を正しく知ってほしい」という親の気持ちそのものだった。第1回は、県内の療育センターで支援員としてご活躍されている先生から、発達障害の中でも自閉症を中心に、その障害のために悩む当事者の姿を実例を挙げながら説明していただき、2回以降は、著名な先生方に、「支援者としての立場からみた障害像」「当事者としての声」「親としての思い」など地域に伝えていただいた。

「のびのび」では、発達障害の支援のためには、まず、「どんな障害なのか」正しく理解したうえで、その当事者ひとりひとりの特性に応じたオーダーメイドの支援が必要と考えている。そのため、この「理解」という点に、特に力を入れて情報発信を行っている。ところが、発達障害者支援法施行以来、確かに理解しようとする方々は増えたものの、「当事者ひとりひとりの特性の理解」につながっているかと考えると、疑問に感じる点が多い。

「発達障害に関しては、こんな支援がいいらしい」と耳にすると、即実行されることがあると聞く。しかし、ここには、大きな落とし穴があることを知ってほしい。「のびのび」では、定例活動の中で、発達障害という大枠の中では共通点もあるが、ひとりひとりが抱える問題点が異なることが、この障害支援の難しいところと感じている。だから、どういう問題点を抱えているのか、それを解決するためにはどのような方法がいいのか、また、その方法を見直す必要はないのか、と支援については、常にニーズ把握が必要と考えている。

ここで、理解しようとしてされている方々に向けて、「支援とは何か」考えていただきたいと、今回、自閉症支援にその有効性が立証されている「PECS」を実例として、この「正しい支援」についての情報を共有する場として、講演会を企画した。

(2) 参加者

参加者募集方法

ホームページ・ブログに掲載
益田市内・鹿足郡全小中学校に案内通知発送
以前の講演会参加者に案内発送
タウン誌「Nice meet to you」に記事掲載
「のびのび」メンバー直接勧誘

今回の講演会は、5月初旬に参加者募集を開始したところ、1週間で30人を超え、当初の目標50人を大きく上回りそうな手応えだった。そこで、会場の設営を工夫することで、定員の増員を図り対応することに変更した。しかし、その増員定員もすぐ満員となり、「のびのび講演会」としては、初めてお申し込みをお断りする事態となった。



参加のお申し込みにご連絡いただいた所属では、養護学校教員が最も多く、次いで、保育士や放課後児童クラブからの参加も多く、福祉施設の方・行政職・保護者と幅広い人材にお集りいただいた。また、朝日新聞浜田支局長も参加され、全講義をお聴きくださった。親や支援者だけでなく、各方面の方々のご参加があることで、発達障害の情報が浸透しつつあることを実感する。

参加者総数 96人
スタッフ 7人



(3) 概要

ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン(株)では、通常、「PECS概要セミナー」は2時間を1コマとして行われる講義である。しかし、初めて「PECS」という言葉を聞かれる方の参加も見込まれるため、講師：服巻繁氏に依頼するときに、「通常2時間の内容を3時間かけて、じっくり、ゆっくりお願いしたい」とこちらの趣旨とともに伝えている。そこで、今回の講義構成は、

13時05分～14時30分 講義①

14時30分～14時50分 休憩

14時50分～16時30分 講義②

とゆったりとした講義で、ビデオなど駆使され分かりやすい(伝わりやすい)内容となり、参加者には、とても好評だった。

ここで、注目していただきたいのが、「休憩」。通常の講演会と比較して長めに思われることだろう。「のびのび」では、ただ講義を聞くだけでなく、「休憩」という時間を利用して、参加者同士で交流を図っていただきたいと毎回、長めの休憩としている。このとき、おやつやドリンクサービスを提供することで、仲間意識を挙げることをサポートしている。

日頃、「連携」の必要性は言われるものの、支援のための「連携」にはつながりにくいものである。そこで、同じ情報を共有した者同士が、日頃、困った場面でお互い連絡取り合うことができるような関係づくりになればと思い、毎回、このサービスを続けている。「のびのび講演会」にリピーターが多いのは、こういう人のつながりがあるからではないだろうか。



今回は、具体的な支援を通じての障害理解のため、講義内容を補完する目的で、販売用の書籍を用意した。PECSを具体的に進めるためには、より高度な内容のセミナーを受講する必要があるが、そのときのテキスト(定価9,800円)も用意したが、これが完売するなど、参加者の意識の高さを伺わせた。また、具体的な絵カードのデータ集が好評で、理論と合わせ、具体的な支援技術そのものを求めている点を感じられる。

当日用意した書籍

PECSマニュアル(日本語版)

自閉症を持つ生徒のためのピラミッド教育アプローチ

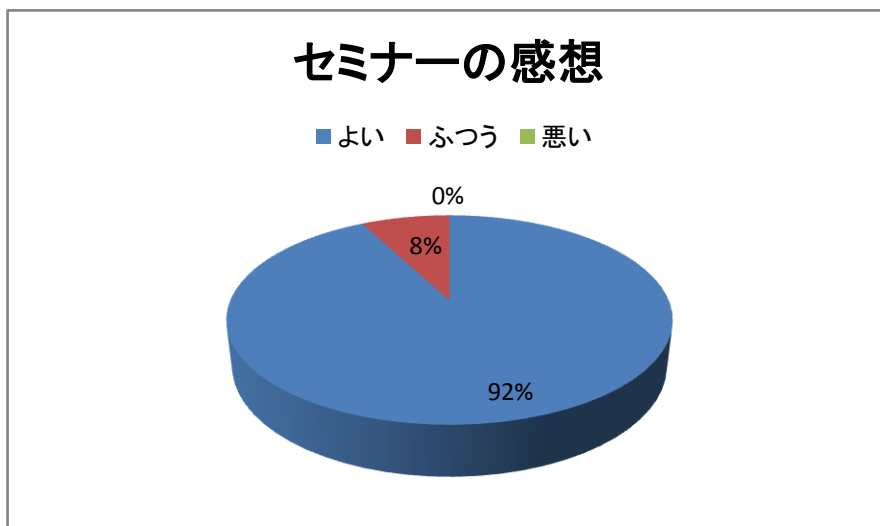
自閉症の子ども達の生活を支える すぐに役立つ絵カード作成データ集

絵カードでコミュニケーション

TEACCHとは何か

(4) 参加者の感想～アンケート結果～

問1 PECS概要セミナーについて、どう感じましたか？



その理由は……

以前から興味があり、講師が服巻先生だから
基本的な事柄がよく分かった

具体的で分かりやすかった。指導風景の映像がよい。PECSという名前は聞くが、今回のセミナーで正しく知ることができた。

具体的な話で分かりやすかった

専門的でもっと深いと思うが、とてもわかりやすかった

実践的な内容でよかった。ただ、後ろの席は見づらい

新しいコミュニケーション方法を知った。後ろには、見づらい

講義は具体的で分かりやすいが、実践にどうつなげられるか疑問

PECSを初めて知った

絵カードの必要性が出たら、役立てたい

具体的で分かりやすかった。

PECSの理解を深めることができた

理解だけでなく、指導場面がステップごとに映像で紹介されたので、分かりやすかった

PECSの内容を知ることができた

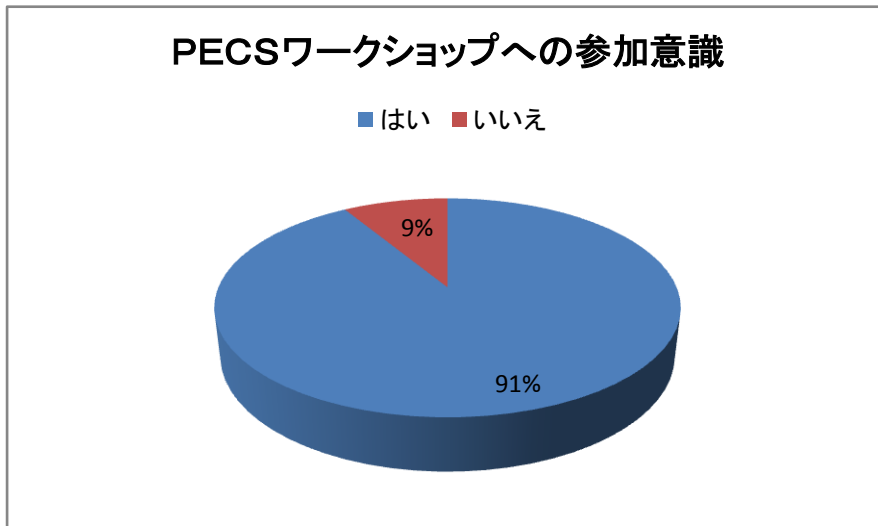
分かりやすかった

今までに説明してくれる人がいなかった

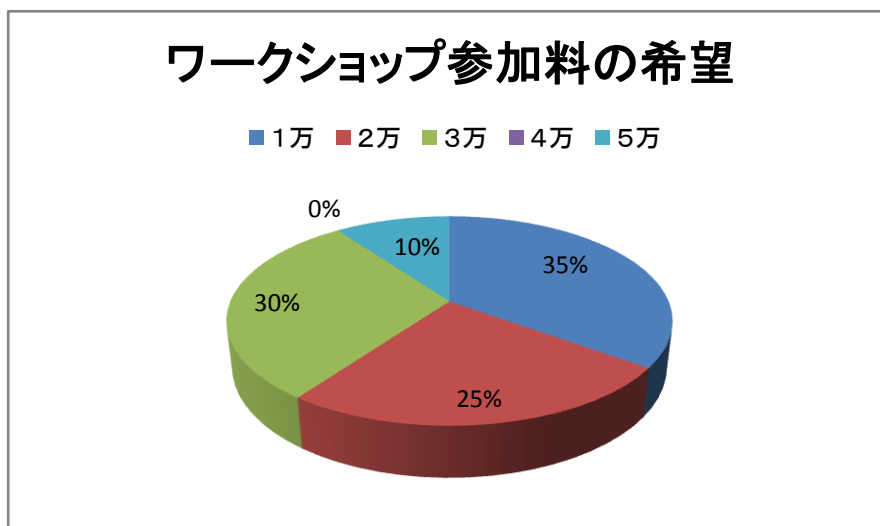
分かりやすかった

今までの実践を再確認し、改善すべき点がイメージできた。何をすべきかヒントを得た。

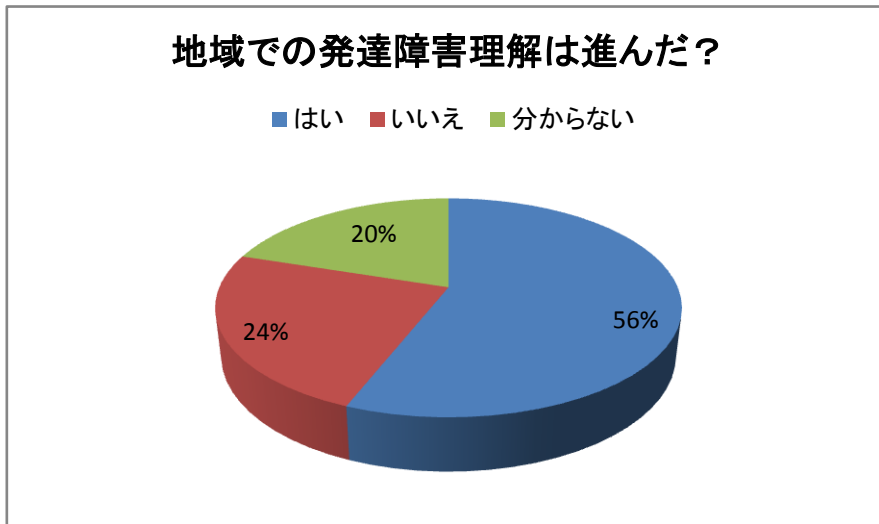
問2 「のびのび」がPECSワークショップ基礎2日を企画した場合、参加しますか？



参加される場合、いくら参加料がいいと思いますか？



問3 あなたの身近では、発達障害に対する理解が進んだと思いますか？



「はい」の方のご意見

研修の場が多くなった 新聞や書籍も充実してきた。
TV放映などもあり、理解までは到達していないけど、知ってもらえたと思う。
障害のある子ども達に接する機会も増え。研修会も増えた。
進みつつあるけど、不十分です。
以前は資料もなかったが、今はいろんな本もあり、先生も勉強されようとされている。

「いいえ」の方のご意見

進んだと思うが、まだ理解不足だと思う。
指導者でさえ正しく理解されていない人が多い。
学校での理解が進んでいない。学校でもPECS研修すればいいのに。

「分からない」の方のご意見

理解しようとしている人の輪が広がっているのかどうか不明。
勉強する人は増えたが、実際の生活ではまだまだ。
知らない人の方が多いと思う。

問4 「のびのび」に対して、ご意見をお寄せ下さい。

勉強になりました。
サークルの詳しい活動内容を知りたい。
ありがとうございました。
受講しやすい環境でした。
いつもいろんな講演(講師)に感謝しています。
また、佐々木正美先生の研修をお願いします。
いろんな企画に感謝しています。

(5) 今後への課題等

参加者へのアンケート回答にもあったが、この今回の講義をどのように生活に活かしていくのか課題のひとつと考えられる。しかし、日常生活では、すでに、写真や絵を使った情報提供が自然に根付いていることに気づいてほしい。講義の中で紹介された「ハンバーガーショップやファミリーレストランでのメニュー」は、まさにその一例と言える。定型発達の人にとっては、何気なく「写真から選ぶ」行為であり、注文のときにも「これ」と写真を指さすだけで、自分の意思を伝達することを自然に理解している。しかし、発達障害のある人にとっては、この写真メニューをどう使いこなせばいいのか、まず、使い方そのものを教えなければ実行することに難しさを感じていることを知ってほしい。少なくとも、今回、このセミナーに参加された方々は、この点を気づかれたのではないだろうか。

情報を目に見える形に構造化して伝えることは、言葉で伝えるよりもはるかに効果的であることは、発達障害のある方々に接したことがある人は誰でも感じることだろう。この構造化をより具体的に、ひとつの「支援」として開発されたもののひとつに「PECS」があるのだが、日常生活の場面にいきなり絵カードを使っても、絵カードを使ってコミュニケーションを図る体験のない人にとっては、全く用をなさない。写真メニューと同様に、まず、その使い方やその支援が意図するものをしっかり習得したうえで、日常生活に発展させる必要があり、その習得過程には、専門家(支援者)と生活のあらゆる場面(家庭・学校・会社・地域など)のつながり(連携)が、重要になってくる。支援者との間だけで、支援によるコミュニケーションが成立していても、日常生活に活かすことには発展しないと言える。やはり、支援には、発達障害のある人に関わる全ての人の連携が不可欠であることを改めて感じる。

このPECS概要セミナー参加者間で、連携の重要性を再認識し、支援方法を日常生活に発展させていく方策を模索する必要性を感じる。また、PECSの有効性を感じ、実施しようとする人にとっては、今回の講義では実践するための内容でないため、さらにレベルアップしたワークショップの受講を必要とする。最低でも2日間を要し、テキストも高価なため、「のびのび」が主催するには経費的に困難であるが、必要性を感じる方々と連絡をとりながら、この地域でのワークショップ開催に向けて検討を進めたい。

なお、今回のセミナーも含め、過去の講演会でも終了後の片付けは、参加者が総出で手伝ってくださっている。発達障害児支援サークル「のびのび」自体が、親の会のため、スタッフ数が少ないのだが、毎回、このようなお手伝いをいただけることに感謝している。また、前日の会場準備や当日の音響など会場管理にもボランティアでお手伝いして下さる方がおられ、この方々のお力沿いがあるからこそ、講演会を6回と回を重ねることができている。親の会として情報発信を続けることができるのは、多くの方々の支えがあるからこそであり、その支えに応えられるような活動に発展させたいと考える。



講師：服巻繁氏

発達障害児支援サークル「のびのび」

〒698-0031 島根県益田市多田町1036-26

TEL/FAX (0856)23-5102

Web <http://nobinobi.big-site.net/>